

発行者：厚木交響楽団 友の会事務局



心踊る美しい季節がまた巡って参りました。「厚木交響楽団友の会」も新年度のスタートです！今年も私達をご支援くださる会員の皆様のもとへ、この紙面をお届けできる幸せに感謝いたします。これから一年間どうぞよろしくお願い申し上げます。

今年はスメタナの生誕195年の年に当たります。

奇しくも私達はその年に、彼の偉大な作品「我が祖国」全曲を演奏する幸運に恵まれました。「チェコ国民音楽の父」と讃えられる彼が活躍したプラハの街、そのゆかりの場所をこれから一緒に巡って参りましょう。題して「**プラハにスメタナの面影を探して**」始まりです！



ベドジフ・スメタナ  
(1824~1884)



プラハ城（右奥）とカレル橋

「**百塔の都**」とも呼ばれるチェコ共和国の首都**プラハ**。様々な建築様式の歴史的建造物が数多く残る街の真ん中を、**ブルタヴァ川**（モルダウ川のチェコ名、以後これを尊重します）がゆったりと流れています。

丘の上にそびえる**プラハ城**を背に、**旧市街**を目指して**カレル橋**を渡りましょう（いずれも世界遺産です）。この橋は現存するヨーロッパ最古の石橋で15世紀初頭に完成しました。橋の両側に並び立つ30体の聖人像がそぞろ歩く人々を見守ります。

渡り終えた橋のたもと右側、小さな半島に「**スメタナ記念館**」があります。自筆譜や愛用の品々が様々な資料と共に明るい室内に展示されています。建物の前にはスメタナの坐像が静かに佇んでいます。その姿は、まるですぐ傍を流れるブルタヴァ川の水音に耳をすましているかのようです。

ここから川を右手に見ながら上流に向かう通りは、その名も「**スメタノヴォ通り**」と名付けられています。カレル橋の一つ上流にある橋を目指してこの通りをまっすぐ歩いていくと、間もなく前方にどっしりとしたネオルネッサンス様式の建物が見えてきます。チェコオペラの殿堂「**国民劇場**」です。



ブルタヴァ川のほとりに建つ記念館



スメタナが生きた時代、チェコは独自の文化や言語、歴史を持ちつつもオーストリア＝ハンガリー帝国の一部であり、それに抵抗する汎スラブ主義運動が盛んな時期でもありました。「**チェコ語によるチェコ人のためのオペラ**」そしてそれを上演するための劇場造りが人々の悲願だったのでした。



記念館 展示室内部▶





ドイツ語による教育を受けてきたスメタナが**母国語**を学び直したのは、スウェーデンのエーテボリに職を得て当地の指揮者として活躍、帰国してからのことでした。国民劇場建設の機運が盛り上がる中、スメタナ自身も**「売られた花嫁」**をはじめとするチェコ語のオペラを生み出して行きます。彼がドイツ音楽の影響を受けすぎていると反発する勢力によって様々な妨害を受け続けますが、1881年に完成した**国民劇場のこけら落とし**で上演されたのは、スメタナ作曲のオペラ**「リブシェ」**でした。

さて、それでは次にこの「リブシェ」にちなんだ場所に向かいましょう。ブルタヴァ川をさらに上流へさかのぼると、プラハの南部、川の左手にそびえる丘が見えてきます。



国民劇場



ヴィシエフラド（左端が聖ペテロパウロ教会）

高い城という意味を持つ**「ヴィシエフラド」**（地名）です。

ボヘミア王国最古の**プシェミスル王朝**建国の伝説に登場するのがリブシェ姫です。以来ヴィシエフラドの地に10世紀以降に建設された城は代々のボヘミア王の居城として栄えましたが、15世紀初めの**フス宗教戦争**で荒れ果て、その後は**要塞**として使われてきました。1911年に要塞は取り壊されましたが、同じ丘に建つ**聖ペテロパウロ教会**は11世紀の建立以来、様式を変えて改築を重ねながら今日まで丘の上にそびえています。これに隣接する墓地は19世紀以降チェコの芸術家や文化人を記念する墓地となり、スメタナや**ドヴォルザーク**もここに眠っています。（ドヴォルザークはスメタナが国民仮劇場で指揮者をしていた時にオーケストラでヴィオラを弾いており、彼から直接教を受けています。のちにスメタナが反対勢力から攻撃された時には、擁護する側に回りました。）



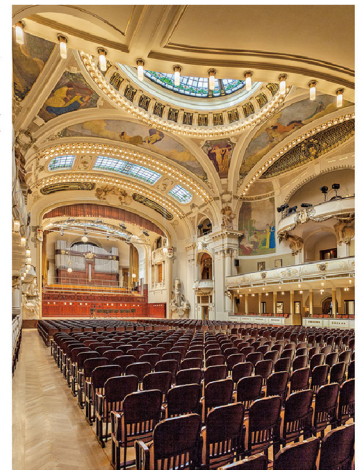
スメタナのお墓

再び市の中心部（**旧市街広場**）に戻りましょう。ここから歩いて行ける場所に**「市民会館」**があります。中には**スメタナホール**と名のつく美しいホールがあり、ここは**「プラハの春国際音楽祭」**の会場にもなります。市民会館には他にチェコの有名な画家**アルフォンス・ムハ（ミュシャ）**の手による**「市長の間」**があり、その美しい天井画や壁画が知られています。



市民会館

ムハと言えば、一昨年六本木の国立新美術館で開催された大規模な展覧会に出掛けられた方もあるでしょう。晩年の超大作**「スラヴ叙事詩」**全20作が一挙に公開されたことで話題を呼びました。ムハがこの大作を手がけることになったきっかけの一つに、彼がアメリカ滞在中にスメタナの「我が祖国」を聴いたことが挙げられています。ムハは1860年生まれでスメタナより年下ということになりますが、ほぼ同時代を生き、祖国に対する熱い思いには共通するものがあつたのでしょうか。



スメタナホール内部

**「我が祖国」**の作曲に取り掛かる頃、スメタナは既に聴力を失っていました。1874年11月18日に完成した第1曲めのスコアの最後には日付と**「耳の病を患いながら」**という言葉、そして同年12月8日に完成した第2曲には**「全くのつんぼになって」**という言葉が記されていたそうです。全6曲が完成した時には彼は**55歳**になっていました。失聴して公職より退き、プラハから郊外の娘の家に移り住んで以後も、作曲活動を続け作品を生み出していましたが、最後はプラハ市内の精神病院で**60年**の波乱の生涯を終えることとなります。



『スラヴ叙事詩』  
第1作「原故郷のスラヴ民族」

**「プラハの春国際音楽祭」**は毎年スメタナの命日である**5月12日**に「我が祖国」で幕を開けます。

最期まで**ボヘミア音楽の先駆者**として闘い続けた音楽家に敬意を表し、

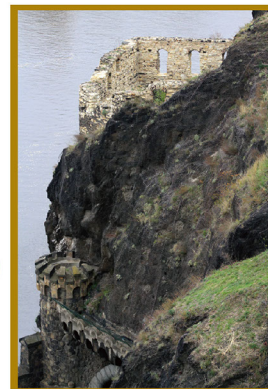


記念館前のスメタナ座像



### 第1曲：ヴィシェフラド（高い城）

伝説の吟遊詩人ルミールが、岩上の城ヴィシェフラドを眺めながら過去に思いを馳せている。彼が奏でる豎琴の響と共に、栄光の時代の王や騎士達の祝宴の情景が浮かんでくる。しかしまもなく闘争が荒れ狂い、勝利の歌がこだました城は崩れ落ち、金色の広間も玉座も打ち砕かれた。ヴィシェフラドは廃墟となり、何世紀もの間さびれた姿で佇んできた。廃墟からは昔の歌がこだまし、ルミールの豎琴の音は風の中に消えてゆく。



### 第2曲：モルダウ（ブルタヴァ）



曲は最初の小さな流れ、冷たく、そして温かい源流から始まる。二つの流れは一つになり、岩に当たって清々しい水音を立てながら、陽の光を受けて次第に川幅を増してゆく。川は狩人の角笛が響く森を抜け、収穫祭が行われている田園を流れてゆく。夜には月明かりを浴びた川で、水の精達が踊る。朝になって流れは速さを増し、聖ヤンの急流にしぶきをあげて流れ落ちる。川幅を増して大河となったブルタヴァは、古く尊いヴィシェフラドに挨拶を送りながら、ゆったりとプラハに流れこみ、ついには壮大なエルベ川へと流れ去ってゆく。

### 第3曲：シャルカ

シャルカはプラハの北東にある谷の名前であり、その由来ともなったチェコの伝説「乙女戦争」に登場する女性戦士の名前でもある。始めに恋する男に裏切られたシャルカの怒り、屈辱、激怒、復讐の誓いが語られる。わざと自分を木の幹に縛らせたところに騎士ツティラートと兵士の行軍が現れる。乙女の美しさに魅せられた騎士は、彼女を解放、自分の陣営に連れて行き宴会を開く。兵士たちが乱痴気騒ぎをして踊り回り眠り込んでしまったところに、シャルカの合図の角笛が響く。襲撃してきた多数の女子軍によって男達は皆殺しにされる。この伝説で男達が拠点として使うのもヴィシェフラドである。



### 第4曲：ボヘミアの森と草原から

「これは私がボヘミアの田園風景を眺めた時心に呼び起される全ての感情を音で表現した曲である。木立、牧場、森、肥沃な大地、誰もがこれを聴くとき、私が何を描いたのかわかってくれるだろう。」

ースメタナ 記



### 第5曲：ターボル

南ボヘミア州の古い街ターボルは、15世紀のフス戦争におけるフス派信徒達の拠点となった。フス団の賛美歌「汝ら神の戦士」がターボルの町で歌われ、キリスト教徒全員の頭上に響く。賛美歌は戦いに赴くターボル派の人々を勇気付け、戦いの神聖さを断固確信させた。戦闘の最中にも賛美歌は聞こえ、信仰を裏切るよりは死を選ぶターボル派の激しさに、敵は恐怖に陥った。



### 第6曲：ブラニーク

前曲から切れ目なく続くブラニークは中央ボヘミア州の山の名で、フス派の戦士達が葬られた地とも、チェコの守護聖人ヴァーツラフが眠る地ともされている。国家が危機に瀕した際には彼らが復活して助けてくれるという伝説を、ターボルから続くフス派の賛美歌を響かせて讃える。新たな賛美歌「汝らの神と共に勝利を収めん」が現れ、最後に「ヴィシェフラド」のテーマがチェコ民族の復興と未来の栄光を称える。チェコの愛国心が最高潮に高まる壮大なクライマックスである。



インタビュー【にしお】  
の  
つぶやき

第7回



## “ブラハの春音楽祭”と「我が祖国」

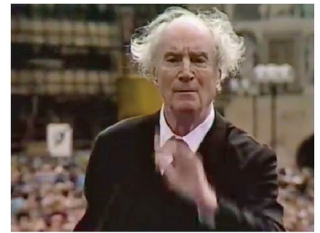
“ブラハの春音楽祭”は、毎年春にチェコのブラハで開催されるクラシック音楽による国際音楽祭で、ホスト役のチェコ・フィルハーモニー管弦楽団のほか著名な音楽家やオーケストラが招かれ公演を行います。毎年、スメタナの命日である5月12日に彼の代表作「我が祖国」の演奏で幕を開けます。このことから「我が祖国」がいかにチェコ国民に愛されているかがわかりますね。

なかでも1990年の“ブラハの春”は特別なものでした。1989年11月にベルリンの壁が崩れ、同年末にはチェコスロヴァキア(当時)でも共産党一党支配体制が崩壊し、劇作家で反体制の闘士ハヴェルが大統領に就任、ブラハは自由の街となりました(ビロード革命)。そして、ハヴェル大統領は、1948年に体制を嫌って亡命し1986年には健康上の理由により一切の指揮活動から引退した名指揮者ラファエル・クーベリックを、かつて彼が首席指揮者であったチェコ・フィルの指揮台に、しかも“ブラハの春音楽祭”のオープニング・コンサート「我が祖国」の演奏に呼び戻したのです。市民フォーラムのピンバッジを身につけた、クーベリック、楽団員、聴衆による熱気あふれる感動的なコンサートは当時NHKでも放送され、私の大切なビデオライブラリーのひとつとなっております。



市庁舎前でのコンサートの模様

しかし、この時の“ブラハの春”にはさらなるサプライズがありました。それは歴史的オープニングコンサートに立ち会うことのできなかった数多くの市民・国民のために、6月6日ブラハ市庁舎前での野外コンサートで「我が祖国」が再度演奏されたのです。オーケストラは、チェコ・フィルハーモニーのほかブラハ交響楽団、ブルノ国立フィルハーモニーの三楽団混成…選抜ではありません。各パート通常の3倍以上の人数での演奏で、広場には10万人にもせまる聴衆が集まったのです。こちらNHKでの放送があり、言葉にならない感動を覚えた思い出があります。



指揮するラファエル・クーベリック

なぜ、ここまで「我が祖国」は愛されるのでしょうか?

それは、全6曲中5曲にそれぞれ地名がつけられ、全曲を通じて風景・自然・民族・民話・歴史が祖国の民謡のメロディや讃美歌を引用しながら高らかに歌い上げられているからでしょう。そして、終曲のクライマックスでは、讃美歌「汝ら神の戦士」が高らかに響き、<彼とお前が常に勝利と共にある>と歌われ、祖国の最終的勝利、希望に満ちた未来を暗示しながら曲を閉じるのです。

故ズデネック・コシュラーが最晩年、スロヴァキアフィルを率いて日本ツアーをしたときのプログラムのひとつが「我が祖国」でした。ちょうどその時チェコスロヴァキアはチェコとスロヴァキアに分裂した直後で、微妙なバランス～チェコ人の指揮とスロヴァキアのオケがチェコの国民的音楽を～であったので、どこかの新聞記者がその事を会見で突っ込んだそうですが、それに対して「我々は、美しい音楽を、素晴らしい芸術を愛し、それを届けに来た。真の芸術は政治的その他諸々の困難とは別に存在するものなのではないか?」それがコシュラーの答えでした。まさにその通り!と感銘をうけた記憶があります。



今後の  
演奏会  
予定

### 第83回 定期演奏会

2019年10月6日(日) 14:00 開演  
会場/厚木市文化会館 大ホール  
指揮/柴田 真都  
モーツァルト 交響曲第35番「ハフナー」  
ブルックナー 交響曲第7番

## 事務局より

●2008年5月、私はブラハに旅して「ブラハの春音楽祭」のオープニングコンサートを聴く機会を得ました。今回のスメタナ特集を企画するにあたり、その時の経験が思いがけず役立っております。制作のために新たにスメタナの伝記を読んだり、ブラハ関連の本で美しい写真を見ているうちに、再びブラハを訪れたいという思いがあふれて来ました。お読みくださった皆様にも同じように感じていただけたなら、こんなに嬉しいことはありません。で、肝心の「我が祖国」の演奏はどうだった?それが残念なことに、時差ボケによる睡魔との戦いで、ほとんど何も覚えていないのです…。今回、制作にあたって以下の著作、資料を参考にさせていただきました。

- ・ひのまどか著「スメタナ 音楽はチェコ人の命」 ・片野優、須貝典子編「図説ブラハ」
- ・観光ガイド「芸術と歴史の街 プラハ」 ・「ミュシャ展」図録
- ・ブルノフィルハーモニー管弦楽団演奏会 プログラム 他

●今年もまた友の会会員を継続してくださった皆様には心より御礼申し上げます。私達の演奏をよりお楽しみいただけるよう、今年も充実した内容の通信をお届けできるよう頑張っております。よろしく御礼申し上げます。なお、行き違いでしたら誠に申し訳ございませんが、未だ継続手続きがお済みでない方は、ご面倒でも下記の口座までお振込をよろしくお願いいたします。入金を確認され次第、第82回演奏会のチケットを送らせていただきます。退会を希望される方は、お送りしたお葉書、またはFAX、メールにてご連絡くださいますようお願いいたします。

振込先: 三井住友銀行 本店営業部 普通口座 1775339 厚木交響楽団友の会 代表西尾尚  
Solo: 2500円 Duet: 5000円 Concerto: 10000円 Symphony: 30000円

ご質問やご意見、ご感想は郵便やFAX、メールにて下記までお寄せ下さい。特に電話は留守番、FAX専用ですので、必ずメッセージを入れて下さいますようお願いいたします。後ほどお返事を差し上げます。

(事務局 岡田 史子)

